

おかもとやまこふんぐん  
**22. 岡本山古墳群**

所在地：越前市岡本町

調査原因：範囲確認調査

調査機関：平成 22 年 11 月 30 日～12 月 21 日

調査主体：越前市教育委員会

調査面積：33.2 m<sup>2</sup>

時代：古墳時代



位置図 (S=1/15,000)

**調査の概要** 岡本山古墳群は岡本山北頂部に前方後円墳 1 基と、それに南接して方墳と考えられる古墳 1 基の計 2 基からなる古墳群であるとされています。現在、土砂採取により北・西部の一部が破壊され、自然崩落が徐々に進んでいる状況であり、かねてより崩落被害の少ない早期の段階での発掘調査の必要性が指摘されておりました。以上のような状況から、地権者の方に現在の状況を説明し、調査に協力していただけるよう働きかけを行ってきました。その結果、平成 20 年度より範囲確認調査を実施することになりました。

平成 20 年度は後円部の東側に裾に向かってトレンチを 2 本設定し調査を行いました。調査の結果、平成 7 年に行われた墳形測量調査において指摘されていた 2 段のテラスは後世の林道跡であることが判明しました。

平成 21 年度は前方後円墳の後円部と前方部の東側くびれ部で範囲確認調査を実施しました。調査の結果、上層で瓦片が多く出土しました。これは数十年前まで墳丘上にあったお堂に葺かれていたものと考えられます。瓦が多く出土した層の下はやや平らになっていましたが、近代の林道の痕跡なのか古墳の段築の痕跡なのか明確には判断できませんでした。

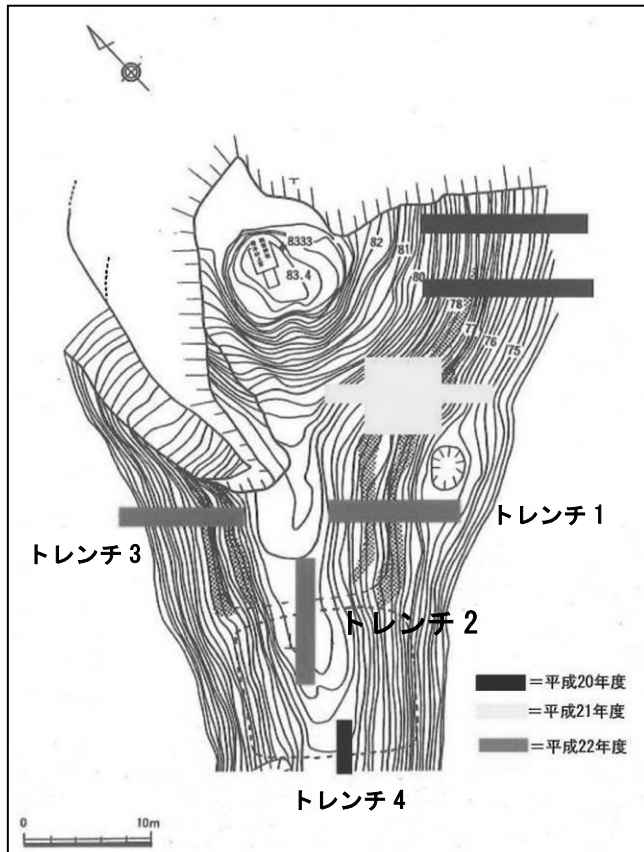
平成 22 年度は前方部で調査を実施しました。東側、西側にそれぞれ裾に向かってトレンチを設定し、東側をトレンチ 1、西側をトレンチ 3 としました。そして前方部と南接する方墳との関係を確認するため、尾根上の遊歩道部分にトレンチ 2 を設定しました。調査の結果、トレンチ 1、トレンチ 3 とともにやや平坦な部分は断面上で認められましたが、明確に段築と定義付けられるものは確認できませんでした。トレンチ 2 はどちらの古墳の周溝も検出されませんでした。前方後円墳と方墳の間と推定されている場所から円筒埴輪が据わった状態で出土しました。このことから、これまでに推定されてきた前方後円墳に南接して方墳が存在するという形態を見直す必要性が出てきました。そこで、トレンチ 2 から道沿いに南下して、表面から見てなだらかに傾斜している場所に新たにトレンチ 4 を設定しました。調査の結果、東西に走る溝状の落ち込みが検出されました。

**遺物** 平成 22 年度調査のトレンチ 4 からは何も検出されませんでした。それ以外のトレンチからは主に埴輪片が出土しました。埴輪片以外の遺物は、前述しました平成 21 年度の

近代の瓦、若干ではありますが、須恵器、かわらけの破片なども見つかっています。埴輪片の種類は円筒埴輪、朝顔形埴輪、形象埴輪でした。

**まとめ** 平成20年度から22年度までの三年間の調査で多くの成果が得られましたが、平成7年度に想定された形態を大きく見直すという新たな課題も出てきました。これまでの知見と近年の調査を総合的に判断し今後の調査方針に活かしていきたいと思えます。

(野澤雅人)



トレンチ配置図



トレンチ2



円筒埴輪片



円筒埴輪出土状況